

技能振興コーナーつうしん

若年技能者人材育成支援等事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、毎年多久市の県立産業技術学院で行っている「さがものづくり技能フェスタ」や市町等のイベントと共催で実施している「体験教室」は中止となりました。

なお、「さがものづくり技能フェスタ」に替えて、県内の学校を訪問してものづくりの体験をしてもらう「ものづくり体験キャラバン」を実施しましたが、子どもたちからは、「もう一度やりたい」、「技能フェスタに行きたい」との声が聞かれました。

◎ものづくりマイスター等活用事業

企業・高校での実技指導派遣

中小企業、業界団体や高等学校からの要請に基づき、ものづくりマイスターを派遣して実技指導を行っています。今年度11月までに、延べ306名のものづくりマイスターが派遣されており、受講者数は延べ1,904名となっています。

区分	マイスターを派遣した職種
企業・団体	普通旋盤、フライス盤、建築大工、建築配管、配電盤・制御盤、左官、溶接、機械組立仕上げ、機械保全、タレパン
高等学校	和裁、洋裁、和菓子、鋳造、洋菓子、下絵付け、農業機械整備、ろくろ、建築大工、普通旋盤、上絵付け、電気溶接、基礎工、型枠施工



<ろくろ（有田工業高校）>

ものづくり体験教室

ものづくりマイスターを小・中学校等に派遣して、ものづくりの魅力や技能の大切さなどを伝え、児童生徒のものづくりに対する興味・関心を高める取り組みを行っています。今年度11月までに、延べ124名のものづくりマイスターを派遣しましたが、受講した児童生徒や教師・保護者の数は2,144名となっています。

ものづくり事業所・訓練施設見学

今年度は3校（山代中学校、小城中学校、有明東小学校）からの要請に応じ、ものづくり事業所見学（延べ12ヶ所）を実施しています。受講した生徒数は163名です。

中学生・高校生の職場体験実習

令和2年8月に、ものづくりマイスターが働く職場において、2～3日間と短期間ですが、中・高校生による職場体験実習を行いました。今年度は、3か所の事業所に受け入れていただき、延べ30名の生徒たちが参加しました。

「ものづくり体験キャラバン」を実施しました

- 時期 令和2年9月～令和2年12月
- 場所 佐賀県内の小・中学校

◇実施内容等

- (1) 対象者 児童生徒等
- (2) 内容 ものづくりマイスターや熟練技能者等の協力によるものづくり体験
- (3) 体験コース 16の体験コースから学校の希望選択により実施



白石小学校(洋菓子づくり)



令和2年度 卓越した技能者 (現代の名工)

婦人・子供服注文仕立職 金武 節子さん プロフィール

昭和35年から婦人子供服製造業務(紳士服仕立て、検品、納品、注文婦人服裁断師、デザイナー)に従事、昭和54年から独立し、オーダー店としてアトリエを経営されています。

布に教えられ、糸に導かれて

洋服も時代の流れとともに変革していく中で、注文服にこだわり続けました。着る人の体に合い、着ていて快適に思える服、着る目的や体型に合わせたデザイン、季節にマッチした服装、常にこれらの事と向き合い、基本を大事に、しかし変えたほうが良いものを変えられないものを選択しながら、注文服づくりに徹してきました。

また、ひとり一人の体型に合わせるため、立体裁断によるパターンでの縫製を行っています。衣服校正の細部を確認するには、立体裁断は欠かせないものです。洋服づくりの基本は、このパターンメイキングにあると思っています。

小さい子供には、本物のいいものを見てほしい

ものづくりの感性を高めるには、小さいころから本物のいいものを見ておくといいです。きれいなものをたくさん見て心豊かになっていくといいですね。



立体裁断中の金武 節子さん

鋳物工 淵上 政徳さん プロフィール

船舶用内燃機関部品の鋳造製造に従事し、高度な技能を身に付けられました。技能向上への意欲が旺盛で、常に自己研鑽に努められ、後継者の指導や業務改善に取り組まれています。

「段取り7、仕事2、余裕1で仕損じなし。」

鋳物キュポラは、物を見ないで物を作るという、すなわち無から有を創り出す面白さがあります。その中で五感、六感を研ぎ澄まし、指先から得られる感覚、色、におい、このまま続けるとヤバイという直感をフル活用しています。

また、幼少期から大工職人だった父から「段取り7、仕事2、余裕1で仕損じなし。」という教を大切にしています。「余裕1」というのは、段取り時に作業全体を把握して、整理整頓、翌日の準備等の時間の余裕を考慮するという事です。この教えから、作業の安全、効率化のみならず、品質向上につながっていきました。

自分自身の手で触れてみるのが大切です。

もの作りに興味を持つためには、自分自身の手で触れてみるのが大切です。ネットの情報や写真からではなく、実際にものに触れながら、自分の感性と想像力でどんどん高めてほしいですね。



技能者表彰伝達式の淵上 政徳さん